

グローバル・ジオパーク・ネットワークに参加が決まって（所感）

日本ジオパーク委員会委員長（財団法人国際高等研究所所長） 尾池和夫

グローバル・ジオパーク・ネットワークは、地質や地形など、地球のもつ資産を、市民が地球に親しみ、地球を科学的に知るために活用するしくみです。

日本でも、このネットワークに参加する方針が決まって、3か所がユネスコに申請しました。それぞれの地域の関係者の皆さんがたいへんな熱意を持って準備にあたられました。

現地調査にこられた委員の方たちもたいへんな熱意で現地を視察し、その中で貴重な助言や示唆を与えて下さいました。

地質図を見ると、日本列島では、火山岩類、堆積岩類などがこまかくモザイク状に並び、きれいな模様を作り出している様子がわかります。たくさんの構造線や活断層や活火山もあります。ヨーロッパやアメリカなどの地質図を見ると同じ地質が広く分布していて、断層や活火山も少ないことがわかります。ヨーロッパなどの安定大陸と東アジアの変動帯の大きな違いがそこにあります。

日本列島の、構造線や活断層帯で区切られ、活火山が活動して刻々と姿をかえるというような変動帯の特徴が、世界ジオパークネットワークの概念に新しいものをつけ加えるであろうと私は期待しています。

もともと日本列島の大地全体に、私はジオパークを名乗る資格があると思っています。その大地のしくみを科学的に語る組織を整備することによって、その地域のジオパークが成立するという日本列島であると思っています。

その中で、3か所が選ばれました。これを機会にたくさんの市民が参加するように、ジオツーリズムが盛んになってほしいと思います。そしてさらに日本列島の他の地域からも申請してほしいと思っています。

ジオパークのさまざまな形での活用を通して、地球科学の成果にふれ、地球環境の、エネルギーの、あるいは地下資源の問題を考え、生命を生み出した大地のしくみを考え、21世紀の人類の課題を考えるというような機会を、市民のみなさんに、とくに未来に向かう子どもたちに、持ってほしいと私は願っています。